◆学校教育目標「自ら学び、心豊かで、たくましく生きる生徒の育成」

令和４年度 長崎市立丸尾中学校だより

まるお

第１３号

＜令和４年度スローガン＞
「輝く　～ 学び・仲間・笑顔 ～」
令和５年３月２４日発行
文責：校長　楠本　千穂

第７２回卒業証書授与式

３月１４日（火）
ご来賓の皆様をはじめ、保護者・ご家族の皆様のご臨席をいただき、厳粛な中に第７２回卒業証書授与式が行われました。振り返れば、２５名の卒業生は、中学校入学以来３年間の生活がコロナ禍という、これまで経験したことの無い、様々な場面で制限のある厳しい生活であったと思います。しかし、そのような中であったからこそ「出来ることを、やるべきことを、皆で協力してやる」という気持ちが、一層強くなったようにも感じます。そして、本当に大切しなければならないものを、これまで以上に気づくことができたようにも感じます。特に今年度の１年間は、自覚ある行動で最高学年としての責任を十分果たしてくれたことに感謝しています。これまで、卒業生の皆さんが新たな歴史を加えてくれた丸尾中学校の伝統は、２年生・１年生の後輩が、しっかりと受け継いでくれることと思います。式辞の中で、最後に次のことを伝えました。

４月からは、それぞれ新しい生活がスタートする皆さんの門出にあたり、最後にひとつ、餞の言葉を贈ります。それは「ゴール無限」という言葉です。この言葉は君原健二さんという有名なランナーの言葉です。君原さんは、ボストンマラソンでの優勝やオリンピックのマラソン日本代表として、東京・メキシコ・ミュンヘンの三大会に出場し、メキシコ大会では銀メダルを獲得するなど、輝かしい功績を残されています。また、現役時代に出場した３５回のマラソンでは、ただの一度も途中棄権が無く、「鉄人ランナー」とも呼ばれていました。このような素晴らしい実績のある君原さんですが、最初から優れていたわけではありません。小学６年生までは自分のことを「勉強に対しても運動に対しても劣等感の塊だった」と言われています。陸上競技との出会いは、中学２年生になって駅伝クラブに誘われたことに始まります。入部してからは、常に自分の限界に挑戦し続けました。「努力は人間に与えられた最大の力」と信じ、人一倍練習に打ち込みました。それでも、実際のレースはとても過酷で、途中で逃げ出したい衝動に駆られたこともあったそうです。そのような時は、自分と目標の距離を小さく持ったそうです。まず「あと５キロ頑張ろう」と自分を励ます。それで苦しいと感じたなら「次の曲がり角まで」と目標を短くします。それでも苦しいならば「次の電柱まで」と走り続けました。だから、これまで一度も途中棄権がありません。ひとつのゴールに到達したら、そこは次の目標、つまりゴールに向けたスタート地点となります。まさにゴールが連続的に続く「ゴール無限」です。これから新たなスタートを切る皆さん、どうか自分の目指す夢や目標に向かって走り続けてください。ひとつのゴールに到達したなら、次の目標を定めて走り続けてください。皆さん全員が、それぞれの夢や目標に向かって、走り続けてくれることを心から願っています。長い人生の中には、急な上り坂や下り坂、想像を絶する悪路に出くわすこともあるでしょう。だけれども、自分の選んだ道を信じて、愚直にひたすら進んでほしい。無限の夢や希望に向かって、失敗を恐れず、まずは、勇気を出してはじめの一歩を踏み出してください。そして、しっかりと前を向いて進んでください。

学年末を迎えて

本日３月２４日をもって、今年度予定していた教育課程の全てが終了しました。３年生は中学校を卒業し、それぞれの新たな道に進むことができました。２年生・１年生も学年の課程を修了し、４月には全員が進級します。今年度は、全ての生徒たちが自分に必要な力を身につけ、自分の思いを自分らしく表現できることを願い、教育活動を進めてきました。一年間を改めて振り返れば、生徒個々に、あるいは集団として、成長してくれた場面が多くあったと思います。学年末を迎えるにあたり、今年度の一年間にひとつの節目をつけるとともに、次の段階における目標を定め、全員の生徒たちが前を向いて進むことができるよう願っています。これまでの本校の教育活動に対し、保護者・ご家族の皆様、地域の皆様をはじめ多くの方々より、ご理解・ご支援をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

今後の主な予定

●4/　7(金)	令和５年度始業式
●4/１０(月)	入学式
●4/１２(水)	３年実力テスト
●4/１４(金)	歓迎遠足
●4/１７(月)	ＰＴＡ新旧役員会
●4/１８(火)	全国学力調査（３年 国・数・英） 長崎県学力調査（２年 国・数） 長崎市学力調査（１年 国・数）
●4/２１(金)	ＰＴＡ総会・部活動振興会総会